

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501509		
法人名	有限会社 二神		
事業所名	グループホームコロナ		
所在地	三重県津市大里窪田町1706-26		
自己評価作成日	令和3年7月25日	評価結果市町提出日	令和3年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470501509-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営者が医師であり、毎日入居者と関わり健康管理を行っています。近くの保育園の行事に招いてもらったり、ボランティアによる園芸もたびたび来てもらっています。田園の広がるのどかな立地で、天気の良い日は散歩に行け、地域がら畑で野菜などを作っている方もみえ、地域との交流も図れます。料理はすべて自炊で、肉、魚、野菜のバランスを考えた献立で、入居者の意見を反映して取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市北西部の志登茂川流域にほど近い住宅団地内に事業所が立地し、周囲は田圃や野菜畑の自然豊かな環境で、地域住民が事業所に野菜を届けて下さる交流関係が続いている。事業所の代表者は地元の内科クリニックの開業医であり、地域住民の信頼性が高く、開設17年目の事業所も地域に根付いている。代表者が毎日朝夕に事業所を訪れて利用者の健康を気遣っているため、利用者は適時に診療が受けられ、職員も安心して業務に遂行でき、家族の安心と信頼の拠り所となっている。従来より利用者の殆どが最後まで事業所での生活を望み、職員が一丸となって看取り介護を実践しているため、職員は当然と受け止めて対応している。2階建て2ユニットで各々の利用者に合わせて独自の内容で、管理者を中心に職員が工夫をして日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームコロナの理念は、「地域に密着し、愛情を持って介護する」であり、管理者及び職員は、その理念を共有し、日々実践しています。	理念は職員全員で決め、地域密着型事業に指定された年度に変更をした。事業所内で利用者の介護のみならず、地域に密着して事業に取り組むように玄関に掲示して職員全員の意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶や会話をしたり、野菜を頂いたり、草取りも一緒にしています。また、地域の運動会や保育園の行事にも参加させてもらっています。運営推進会議には、自治会長も出席してくれます。	昨年よりコロナ禍で、利用者が地元の保育園を訪れたり、慰問者を事業所に招いたりする積極的な交流は禁止しているが、地元農家から野菜を頂いたり、散歩の道中で挨拶を交わす交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、自治会長に事業所の現状を理解していただき、包括支援センターや市職員からの情報と合わせて、地域に持ち帰って頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、自治会長及び市、地域包括支援センター、民生委員、利用者家族などから情報共有、意見交換を行い、ケアの向上、ホームの運営に活かしています。	コロナ禍に於いても運営推進会議は2ヶ月毎に開会しており、一時期外部の自治会役員や市職員の出席は得ずに職員のみで開会した。利用者家族に案内し出席を求めているが実現できない。昨年管理者が交代し、今後家族や地域の広範な関係者の出席を得た内容を検討する予定である。	利用者が地域で生活をする上で防災や支援体制、地域交流等テーマ別に民生委員、老人会、消防・警察等広範な関係者と意見交換をし、互いに地域の資源として活用し合える運営推進会議を目指して内容とメンバーの検討を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に招き、事業所の実情を積極的に伝え、意見を頂き、協力関係を築くよう努力しています。	事業所の代表者は、市介護保険課の要介護認定審査会の中心的役割を担っており、市町村との連携を密にしている。管理者は本庁の介護保険課等の窓口に出向いて、事業運営等の相談をし連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月に一回、虐待・身体拘束について話し合い、勉強をしています。更に、拘束が疑われるような行為がないか確認し合っています。	新規利用者の不穏な言動が観られるため、当面ホール入口を施錠し様子を観ている。身体拘束廃止・虐待防止委員会を隔月に開会し、内容報告とヒヤリハット事例と対応策等を職員は学習し話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束廃止委員会を設置し、毎日職員同士で虐待のないことを確認し、虐待に当たるような行為は絶対ないように注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいないため、話し合いはしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書とともに、契約内容についても十分説明し、理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族の希望については、面会時に要望や意見を聞かせてもらい、あまり面会に来ることができない家族には、電話で近況報告をし、意見を聞いています。	家族より個別の利用者に関する要望や意見は良く聴き、利用者に関わる際に反映させている。運営に関する意見は無いため、運営推進会議に家族の出席を案内しているが実現できず、今後家族が出席しやすいテーマで会議の開会を検討する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔月の運営推進会議には、職員も出席し、1階、2階(ユニット)交互に議題を出し、全員に発言の機会を設けています。また、日ごろから管理者は、職員と会話し、意見を反映するよう努力しています。	日常業務の中で、職員は気付きや要望、意見を随時管理者に伝え、他の職員に周知して業務に反映させている。管理者は職員と話し合い研修機会を多く持ち、ステップアップを目指すと共に、居心地良く働ける職場づくりをしたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休暇や有給を取得するなど、就業環境は整備されています。職員は、意欲を持って取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加し、そこで学んだ知識を職場に持ち帰り、他の職員に伝え、ともに向上するよう努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会で他事業所の職員と交流したり、施設見学させていただいたりし、良い部分を参考にさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを尊重し、代弁できるようし、信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の本人の様子を十分にアセスメントし、必要なケアを提供します。また、入居後は、本人の様子を必要に応じて家族に連絡し、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向に寄り添い、ケース会議で課題や必要としている支援を見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることは、見守ったり、できるだけ一緒にしたりしています。また、他の入居者と支え合い、教えてもらいながら良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い方は、家族と密に連絡を取り、家族との触れ合いを持っていただくよう支援しています。また、外出や外食される家族もみえ、情報を交換しながら共に本人を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス予防の都合で外出や面会を極力控えていただいていた。	コロナ禍に於いて、玄関先での家族との面会を実施している。面会に来れない家族には、毎月利用料請求書とともに利用者の写真と近況報告を記載して郵送し、馴染みの関係継続の支援に務めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歩行練習時は、入居者同士声を掛け合い楽しんで行っています。また、手洗いを手伝ったり、下膳などは、できる方が困難な方の分を手伝ったりし、支え合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気で入院し退居された方のお見舞いに行ったり、家族に会えば様子を聞きます。また、必要に応じ助言を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や買い物、帰宅など希望があれば、家族の協力を得て、希望に添えるようにしています。意思疎通が困難な方は、表情を見、笑顔になれるような関わりを日々検討しています。	「その人らしく生活をしてもらいたい」と、事業所の利用者に対する介護の指針がある。その為に職員は利用者寄り添い、会話や表情で利用者の思いを把握するように努めている。業務日誌や看護介護記録に記入をして情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族と面談し、しっかりアセスメントをし環境を把握します。また、入居前に関わったケアマネから話を聞いたり、サマリーを頂き、把握します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテにその日の様子やレクリエーションの様子を記入しています。毎日バイタルチェックし、顔色や表情の変化に留意し見守っています。また、できることを伸ばしながら一人一人の能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員間で情報を共有し、話し合い、意見を反映しています。また、本人の気持ちを確認し、家族やドクターに相談しています。月一回ケース会議を開き、課題やケアプランの見直しを行います。	計画作成担当者が作成した介護計画書を基に毎月3名づつ、ケース会議を開き、職員全員で協議をしている。3ヶ月毎にモニタリングを実施し本人・家族の意向や主治医の意見等を考慮してケース会議で協議をし、利用者の状況変化に応じて計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のカルテや業務日誌に、その人の一日の様子や健康状態を記録し、変化や異常があればドクターに報告しています。申し送りの時に、職員間で問題点を話し合い、ケアの方法を随時見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪に行けない入居者に、2ヶ月に1回、出張美容サービスに来てもらい、散髪してもらっています。また、介護用品や雑貨などは、家族の希望を受け、ホームで注文しています。通院等家族が付き添えない場合、職員が付き添います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	のどかな田園住宅地域なので、散歩しながら地域の方たちと話をしたり、季節を感じてもらっています。また、地域の方から野菜や花をもらい一緒に育てたり、調理を楽しんだりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営者が医師のため、入居者の状態や異常を報告し、指示を仰いでいます。特定のかかりつけ医がある方は、家族と受診されます。協力医療機関であるやまもと歯科には、職員が付き添い受診します。	現在全員が事業所の代表者を主治医と決め、2週毎に訪問診療を受けているが、主治医が朝夕に来訪しているため、体調不良時には随時受診ができる。整形外科・眼科等、他科受診は家族の協力を得て通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が訪問し、バイタルチェックをしていただき、介護職員が気づいた点を報告し、助言を受けます。また、医師の指示の下、適切な看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経営者が医師なので、病院関係者との連絡や情報交換は緊密にできています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した入居者は、家族の理解を得、ドクターの指示の下、看取り支援を行っています。また、入居の際、十分な説明を行っています。	入居時に「終末期医療対応確認票」で本人・家族の意向を確認し、実際に遭遇した際に再確認をしている。従来事業所での看取りの希望者が多く、その際に「看取り介護計画」に基づいて全職員が一丸となって対応している。代表者である医師の診療が随時可能であるため職員も心強く当然と受け止め、家族も安心となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日ごろから地域の方や、自治会長にお願いし、協力体制を築いています。また、ホームを避難所に提供します。年2回防災訓練を行い、そのうち1回は消防署立ち合いで行っています。	年2回の防災訓練を、昨年はコロナ禍で日勤帯職員のみで実施した。火災を想定した初期消火・通報・避難訓練のみでなく、備蓄や家具の転倒防止、停電対策等緻密な対策と準備が必要と管理者は考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の性格を把握し、プライドを傷つけることなく、人格を尊重する言葉がけに気を付けています。居室に入る時は、ノックをし声をかけます。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保のために、全職員が最も重視している事は、「言葉がけ」である。利用者とは会話をする際の目の高さ、排泄や着替えを誘う時は小声で、入室時にはノックを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションを通して、希望を聞き、どのようにしたいか自己決定できるように話しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのコミュニケーションを大切にし、本人のペースや希望に基づき、レクリエーションやドライブ、買い物、喫茶等の支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力で、美容院に行かれたり、隔月に訪問美容サービスを利用し、散髪しています。洋服は本人の好きなものを着ていただき、お化粧をされる方もみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望を聞いたり、できる方には食事作りや配膳準備と一緒にしていただきます。また、食後は、「味はどうでした？」など会話しながら食器洗いなどを手伝ってもらいます。	食事はユニット毎に利用者の嗜好や要望を伺い、職員が献立作成・材料調達・調理と一貫して手作りしている。重度化傾向で、嚥下調整食等の調理や食事介助が必要な利用者も増し工夫をして対応している。活動的な利用者は、食事の後片付けや行事食を職員と共に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近日のメニューを見て、同じようなものにならないよう、バランスを考え調理します。食事量、水分量、形状等、個人の状態に合わせて提供し、食事摂取量は記録し、低栄養にならないよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛け誘導し、見守り介助を行い歯磨きしてもらいます。歯磨きができない方は、マウスウォッシュなどを用いたり、職員が歯ブラシやマウススポンジを使い、介助します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを職員全員で共有し、声掛け誘導し、トイレでの排泄できるよう支援しています。	各ユニットに排泄が自立している利用者は7名いるが、ほぼ全員がリハビリパンツとパットを着用し、職員は起床時・食事の前後・就寝前等に一人ずつ声かけをしてトイレへ誘い、排泄習慣の確立を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽い運動や、十分な水分補給を心がけ、便秘予防に努めています。また、排便記録を付けて、便秘が続く入居者には、医師の指示で頓服の下剤を服用してもらいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、一人で入浴できる方はいないので、週3回曜日を決め、入浴介助をしています。また、希望者は、いつでも入浴できる体制をとっています。	利用者は週3日入浴機会があり、個浴で全員が職員の介助を得て入浴している。入浴を拒む利用者は皆無で、入浴中歌を歌って気分良さそうにしている人もいます。風邪予防を願って冬至には柚湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は終日解放しており、横になって休みたいときは、自由に休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日バイタルチェックや、全身状態の観察を行い、服薬管理をしています。服薬していただく時は、飲み終えるまで見守りをしています。症状に変化があれば随時医師に報告し、指示を仰ぎます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好みや能力に合わせて、職員と話しながら料理作りや洗濯干し・畳みなどの手伝いをしてもらうなど役割を持ってもらっています。張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ホームの近くを散歩したり、公園や海にドライブに行くなどの支援をしています。また、玄関先のベンチに座って日光浴をしてくつろいでもらっています。	コロナ禍で外出を控えているが、コロナが収束したら、以前のように皆でドライブを楽しみたいと考えている。現在は事業所の周辺を散歩して自然の中で情緒を養い、玄関先のベンチで日光浴をしながら談笑をして気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かっている方は、職員と一緒に買い物に行き、お金を使用します。また、預り金のない方は、ホームで立て替えて買い物を楽しんで頂き、家族に領収書を渡します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、自由に電話をかけています。持っていない方は、ホームの電話を使用していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは、入居者がくつろいでテレビを見たり、雑談を楽しんだり、自由に過ごしていただいています。温度や換気に気を付け、壁に季節の花や塗り絵などを飾り、落ち着いた過ごせる環境を作っています。	1階ユニットの入口には壁面に折り紙で共同制作した「朝顔」が飾られ、明るく和やかな雰囲気である。食堂兼ホールの傍に調理場を設置し、職員は調理をしながらホールにいる利用者とは話ができ、利用者は食事を楽しみにできる。片隅の大きなソファに数人が腰掛けてテレビを観て寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様は各居室で一人になる場所があり、気の合った方たちはホールで話をされてみえます。利用者様の意見でソファの位置を変えることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から大切にしている物や、なじみのある家具などを持ってきてもらい、以前との生活のギャップを感じないよう工夫しています。壁に写真を飾ったり、レクリエーションで作った作品を飾ったりし、生活感を出しています。	居室は明るく、ベッドと洗面台が各室に設置されて衛生面に配慮されている。衣装ケースとテレビ、その他、テーブルと椅子等自宅から馴染みの用具を持ち込み、利用者が居心地良く暮らせるように配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、屈伸運動や廊下歩行を行い、運動不足にならないよう配慮しています。トイレや居室が分かりやすいよう大きな字で表示しています。		